

多様な地域の実情に合った ITS の社会実装を考える

～ 「道の駅」 の地域公共交通拠点化調査 ～

〔ご報告〕

ITS Japanでは『第3期中期計画（2016～2020年度）』*の『多様な地域の実情に合ったITSの社会実装』の具体化に向けて、基礎自治体や地域ごとのITS推進団体等との連携強化を図りつつ、『現場を知る』ことを活動の重点に据え、地域の課題や先進的な取組み、事例について、現地訪問や関係者との意見交換を中心とした活動を進めています。

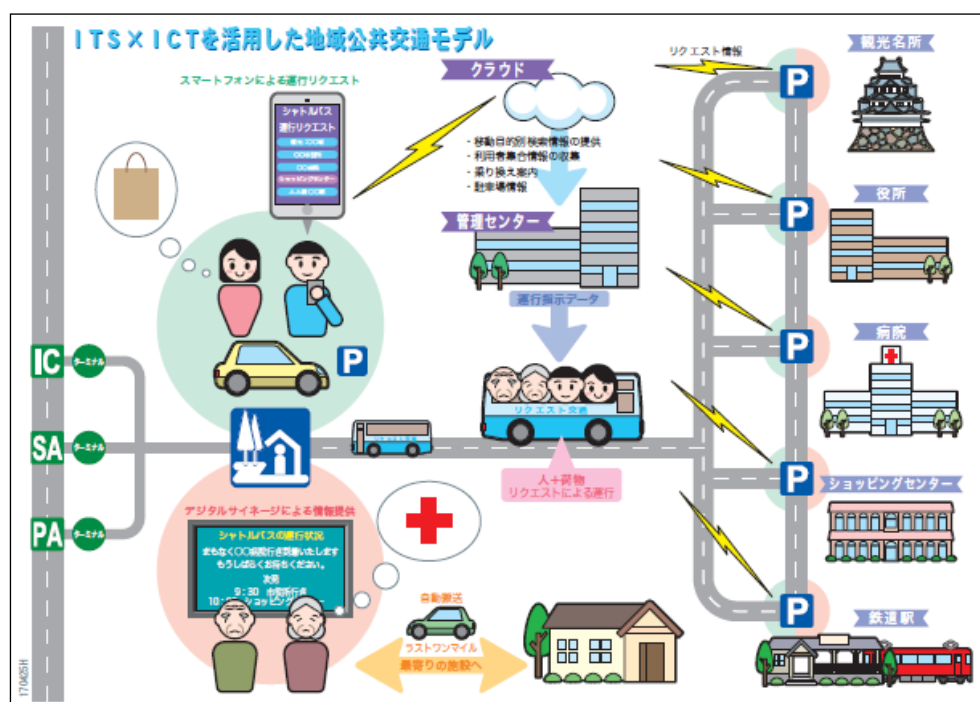
(※ITS Japan第3期中期計画 http://www.its-jp.org/katsudou2014/tabid_210/)

【「道の駅」の地域交通拠点化調査について】

今回は、国土交通省が推進している「道の駅」における施策（「国土交通省モータルコネクト検討会」での活用案、「平成29年度「公募型」実証実験の地域選定について」、「高速道路から一時退出を可能とする「賢い料金」を全国17箇所の道の駅で追加実施」）等々を参考に、「道の駅」の地域交通の拠点化調査を実施しましたので紹介します。

1. 調査した道の駅

ITS Japanでは、ITSやICT技術を活用して「道の駅」が、地域の新しいコミュニティゾーンのような拠点となった場合に、地域の移動手段と移動目的を統合的視野から提供できるモデルケースとしてとらえて、以下に示すような地域公共交通モデルイメージを検討しています。



地域公共交通モデルイメージ

この道の駅を拠点とした地域公共交通モデルイメージに基づき、国土交通省の特定テーマ型「道の駅」募集要領に掲載されている、

- ①交通接続点状況
- ②乗継利便性向上に資する取り組み状況
- ③先駆性または獨創性

の選定基準を参考に、立地条件/観光、公共交通機関との接続性、スマートインターチェンジ（スマートIC）の試行等を視点に以下の5つの道の駅を選定しました。

2. 調査した道の駅の特徴

道の駅		概略・特徴
玉村宿		<ul style="list-style-type: none"> ・関越自動車道高崎玉村スマートICそばの道の駅 ・ETC2.0 一時退出実証実験試行
ららん藤岡		<ul style="list-style-type: none"> ・群馬県藤岡市にある群馬県道13号前橋長湊線の道の駅 ・交通結節点(高速バスターミナル、乗換パーク&ライド(駐車場))
こもち		<ul style="list-style-type: none"> ・群馬県渋川市にある国道17号の道の駅 ・観光（温泉、特産物、国道沿線）
ぐりーんふらわー牧場・大胡		<ul style="list-style-type: none"> ・北関東自動車道駒形I.Cから国道353号線方面約30分 ・関越自動車道赤城I.Cから国道353号線で約20分 ・上毛鉄道とふるさとデマンドバス接続 ・リクレーション施設
赤城の恵		<ul style="list-style-type: none"> ・北関東自動車道駒形I.Cから約20分 ・関越自動車道前橋I.Cから約25分 ・上毛鉄道とふるさとデマンドバス、路線バス接続

3. 現地調査

1) 「玉村宿」

売店の方が、高崎スマートICから非常に近く、ETC2.0の高速道路からの一時退出の試行により来訪者が増加していると話されていました。

また、玉村町営のコミュニティバスが役場～道の駅～ショッピングセンター等を5便/1日の頻度で運用されていました。



EV 充電器(小型エリア)



テスラ充電器(大型エリア)



ETC2.0 通信アンテナ



コミュニティバス停留所



コミュニティバス

2) 「ららん藤岡」

高速道路（PA）と一般道(道の駅)の両方から入れる構造で、高速バスターミナルの併設、パーク&ライド用駐車場も設置されています。

その他、農産物直売場、土産物屋、肉の販売所、花の交流館等の設備も充実していました。



高崎PAと隣接している交通節点



ハイウェイオアシス地図



高速バス案内所



高速バスパーク&ライド

3) 「こもち」

国道沿いにあり、観光バスが立ち寄り易いため、到着時の訪問者も多く、情報ステーションが他の道の駅同様に併設されていました。また、徒歩4分の場所に白井温泉「こもちの湯」があるため、駐車スペースも比較的広く、特産の産直野菜や名産のこんにやくなどにより集客を狙っているようでした。



情報ステーション(入口)



情報ステーション(内部)

4) 「ぐりーんふらわー牧場・大胡」

アクセスは、車か上毛電鉄大胡駅前からの「ふるさとオンデマンドバス」に限られていますが、牧場、キャンプ場やバーベキュー場が併設されており、家族連れで楽しめるよう小さな子供向けの遊具等が充実していました。また、災害時の防災拠点にも指定されています。



シンボルの風車



公園内遊具への入口



レストハウス内

5) 「赤城の恵」

アクセスは、車、或いはJR前橋駅からの路線バス、「ふるさとオンデマンドバス」になります。農産物販売、あじさい公園、日帰り温泉とバラエティに富んだ設備がありました。また温泉施設では、地域住民向けのヨガ教室なども行われているなど、人・車とも平日でもにぎわっており、良いコミュニティの場となっていました。ここも災害時の防災拠点として指定されています。



EV 充電器



駐車場の状況 平日でも混雑



併設する温泉施設の内部

4. 移動手段

今回の動は公共交通を優先し、上毛鉄道、オンデマンドバスを利用しました（表紙写真参照）。

◆上毛鉄道

中央前橋駅（JR前橋駅から歩いて15分ぐらい）から大胡駅まで利用しました。自転車の持ち込みが可能など利便性を考えられています。



上毛鉄道とJR 高崎線の乗換駅



上毛鉄道の終点駅とJR 前橋駅をつなぐシャトルバス



平日は自転車の持ち込み無料



鉄道駅がレンタサイクル



パーク&レール昼間料金が安い

◆ふるさとオンデマンドバス

大胡駅から「ぐりーんふらわー牧場・大胡」と「ぐりーんふらわー牧場・大胡」から「赤城の恵」への移動に「ふるさとオンデマンドバス」利用しました。



オンデマンドバスは、乗り降りの場所（停留所）は定められていますが、必要な利用時間を指定することができます。目的地までは基本的にノンストップで行くことができ、料金も一人210円と安価です。

5. 調査まとめ

各「道の駅」では異なった目的に適した移動手段でつなぎ、駐車場とトイレ、農産物直売以外の個性豊かな特徴を活かしたにぎわいの場とすることで、地域の新しいコミュニティーゾーンとして展開していました。これらの場を基にした、今後のモビリティ活用の在り方を引き続き検討していきたいと思います。

また、道の駅へのアクセスは、公共交通機関（路線バス/オンデマンドバス）はあるものの、主な手段は自動車であり、防災拠点という役割を持たせているが、自動車以外での移動が難しい等、今後の検討すべき課題も多いと感じました。